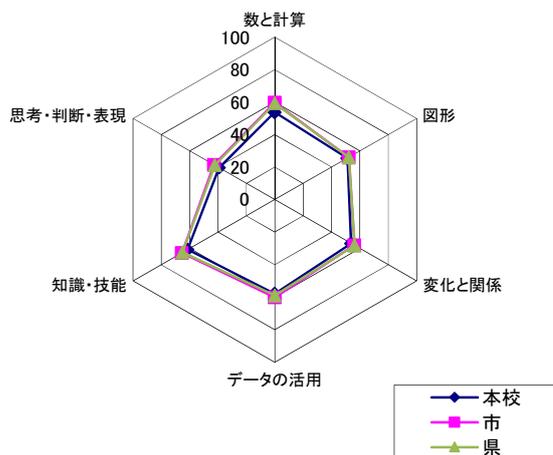


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.8	59.7	59.2
	図形	51.1	52.1	52.1
	変化と関係	53.8	56.1	56.3
	データの活用	57.8	60.1	58.9
観点	知識・技能	61.5	65.5	65.1
	思考・判断・表現	39.2	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○数直線をもとに、異分母分数の大小関係について答える問題の正答率が54.7%で、県の正答率を2.8ポイント上回った。</p> <p>●小数の大小比較の問題の正答率は34.9%で、県の正答率を10.2ポイント下回った。また、数直線上の分数を仮分数で表す問題の正答率は44.3%で県の正答率を9.3ポイント下回った。小数の加法の仕方を説明する問題の正答率は8.5%で、県の正答率を8.3ポイント下回った。さらに無回答率が36.8%と多く見られた。</p> <p>●概数を用い、目的に応じて見積もる問題の正答率は17.0%で、県の正答率を10.8ポイント下回った。</p> <p>●式の意味を正しく捉え、言葉で説明する問題の正答率は38.7%で、県の正答率を12.3ポイント下回った。</p>	<p>・小数や分数の学習では、授業の中で数直線を活用して数の大きさを実感できるようにすると共に、分数の仮分数と帯分数の変換について再度確認し、朝の学習等で復習を行う。</p> <p>・概数の問題では、条件に合わせて概数にする仕方を復習すると共に、以上、以下、未満などの用語の意味を復習し定着を図る。</p> <p>・文章問題では、問題の意味を理解して立式できるように指導していく。特に、分配のきまりと結合のきまりの関係性について、具体的な場面で問題を考えることで理解を深める。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同等である。</p> <p>○ひし形の作図の問題の正答率は78.3%で、県の正答率を3.6ポイント上回った。</p> <p>●三角定規の角度の問題の正答率は54.7%で、県の正答率を10.0ポイント下回った。</p>	<p>・図形の作図の学習では、与えられた一辺の続きを作図するような条件のある作図に取り組み、様々な方法で作図する力が身に付くように繰り返し指導を行う。</p> <p>・角の大きさについては、分度器の正しい読み方について復習すると共に、180度より大きい角度の求め方についても確認する。また、三角定規の角の大きさについても確認し、定着を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係について、一方の変化に伴うもう一方の値について答える問題の正答率は80.2%で、県の正答率と同等であった。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係について、分かることを記述式で説明する問題の正答率は21.7%で県の正答率を3.3ポイント下回った。また、無回答率が32.1%と多く見られた。</p>	<p>・伴って変わる2つの数量から、もう一方の値を求める問題では、様々な問題場面を取り上げ、数の変化を表にまとめていくことを通して、2つの数の変わり方に気付けるように指導をしていく。また、それを自分の言葉で説明する場面を授業の中に設定し、自分の考えを言葉で表現できるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同等である。</p> <p>○2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題や、二次元表を読み取る問題の正答率は、県の平均正答率を上回った。</p> <p>●二次元表の条件に当てはまる人数を答える問題の正答率は13.2%で、県の平均正答率を10.1ポイント下回った。また、無回答率が30.2%と多く見られた。</p>	<p>・折れ線グラフや棒グラフの学習では、数値を読み取るだけでなく、数値の変化から分かることを読み取る活動を授業に多く取り入れ、定着を図る。また、算数の以外の様々な教科でグラフや表などの資料から情報を読み取る活動を効果的に取り入れ、活用する力を身に付けさせる。</p> <p>・二次元表の学習では、数値の読み取りだけでなく、2つの観点から起こり得る場合を分類して考えられるように指導を行っている。</p>